

入学試験問題（第1回）

国語

（60分 満点：150点）

注 意

1. 指示があるまで開いてはいけません。
2. 答えはすべて解答用紙に記入しなさい。
3. 用具類の貸し借りは禁止します。
4. 指示があるまで席をはなれてはいけません。
5. 質問があればだまって手をあげて監督者を呼びなさい。
6. 問題用紙も解答用紙といっしょに出しなさい。問題用紙の余白は下書きとか計算などに利用してもかまいません。

受験番号		氏名	
------	--	----	--

「¹ なんですかね、これは」

横江先生がお茶碗の中をしげしげと覗^{のぞ}くので、何か変なものが入っていたのかと慌^{あわ}ててしまった。

「すみません、あの、何か」

入っていたのかと聞いては、入っていなかった場合にかえって嫌な気持ちになりそうだ。

「―― お米以外のものが？」

尋ねると、横江先生は眼鏡の奥の目を上げた。

「いいえ、お米以外の何物でもありません」

そういうと、箸^{はし}でご飯を口に運んだ。何を聞かれているのかわからなくて、私は食卓の横に立ったまま先生の言葉の続きを待った。

「まあ、おかけなさい」

促^{うなが}されて先生の向かいの席につく。

「しかし、あれですね、介護保険というのはほんとうに融通^Aが□□ない。年寄りにひとりで食事をさせろというのは酷な話です」

「はい」

介護保険適用のヘルプ中には、要介護者と同席して食事をとることはゆるされていない。食事の支度も要介護者の分のみだ。多くつくったからといってヘルパーと一緒に食べることはもちろん、家族が食べることも認められない。

「お茶も駄目なんですか」

先生は駄目だとわかっていて聞いているのだ。

「はい、お茶も駄目なんです」

「では申し上げます」

「はい」

「このお米はどうしたんですか」

やっぱり質問の意味がわからなかった。でも、² 質問の意味がわからないのは私にはよくあることだった。横江先生の質問は最後まで聞き取れるだけだ**いぶましな**ほうだ。

「このお米については私はよく知りません」

正直に答えられるままを答えた。このご飯のお米は、この家の台所の米櫃^{こめびつ}にあったものだ。どこでどうやって手に入れたのか、まして誰がつくったものか、私は知らない。

先生はちょっと^B □□をひそめてから、

「まあ、いいです。夜の間に小人が来て、古いお米とおいしいお米を入れ替えておいてくれるというのは、よくあることです」

「えっ」

私は声を上げた。

「そんなことがあるんですか。小人ってやっぱり三角帽をかぶって長靴をはいてる、あの小人ですか」

先生はちょっと私を見て、

「そうですね、私が見たものはかぶっていました。フェルトでできた帽子だったように思います。靴は木靴でした。では、あらためて―― いただきます」

野菜の炊き合わせに箸を伸ばした。

私はじっと想像した。フェルト帽と木靴の小人はどんなにかわいいだろう。しかし小さな体にとって、お米を交換するのは重労働だろう。私が代わってあげられれば、そんなことくらいいちちょいのちょいなのには。

「小人さん、このお米はどうやって炊きましたか」

先生の質問に私はあわてて辺りを見まわした。この辺にまだ小人が潜んでいたとは、その可能性に気づかなかったとは。

「あなたに聞いているんです、佐古さん」

「は」

ぽかんと口を開けた私に向かって先生はうなずいた。

「私？ ですか？ 何を？ 小人が？ お米？」

「質問はひとつにしてください、佐古さん。私はただ、このお米をどうやって炊いたのかと聞いたのです」

先生はゆっくりと静かに聞いてくれているのに、³ 私はますます混乱してしまった。お米はこの家の炊飯器で普通に炊いただけなのだ。先生をがっかりさせるのがつらかった。

「すみません、炊飯器にまかせっきりでした」

「そんなはずはありません」

「いえ、でもほんとうに」

「うちの炊飯器がこんなにいい仕事をするのを見たことはありません。佐古さん、正直に教えてください。どうしたらこんなにおいしいご飯が炊けるのですか」

すみません、すみません。ほんとうに炊飯器のスイッチを押したただけなんです。――⁴□⁴ったりするようなことではないのはわかっていました。だから□⁴るのは我慢した。傍目^{はだめ}にはただぼうっとしていたように見えただろう。

こういうときに、相手をよろこばせるような答をいえる人が私は好きだった。そしてそれは望んでも自分には手に入らない能力だということもわかっていた。なにしろ私はこれまで、質問されている途中で語尾がふにゃふにゃと消えていってしまうのをなすすべもなく見守ることしかできなかったのだから。

「残念ながら、私はスイッチを押しただけです。そうしたらやがてピンポロンと炊けた合図が鳴って」

「ピンポロンですか。その音からして普段とは違いますね」

「一度蓋^{ふた}を開けました。もうもうと蒸気が上がっていましたから」

「ほう、もうもうと」

「ええ、その蒸気が収まるのを待って、おやすみ保温に切り替えました」

「蒸らさないんですか」

「ここの炊飯器は火力が強いようなので、炊けたらすぐに蓋を開けて蒸気を飛ばしたほうが、ご飯がべたべたしないみたいです。保温モードも、弱いほうにしておかないとすぐに茶色くなるようです」

「しゃもじで底から混ぜないんですね」

「混ぜないほうがおいしいと、あの、私は思うんです」

私は思う、というのには恥ずかしかった。私が思うことに意味はないと知っていた。

先生はふんふんうなずいて、それから黙ってしばらく自分で切った大根を食べていたが、やがてもったいぶった口調でいった。

「そういうふうに」

「はい」

「⁵炊飯器の言葉を聞くことができる人は貴重です。あなたは筋がいい」

筋がいいといわれて⁶私はひっと息を呑んだ。なぜだか息を呑むことしかできなかった。落ちていて考えてみれば、私はどうやらほめられているらしかった。それなのに、ほめられたことがないからどう反応していいのかわからない。息を呑むのが正しい反応だとは思わなかったが、ではどうすればいいのか見当もつかなかった。

先生は私の様子には頓着^{とんちやく}せずに、もう黙っていた。黙ってお昼を食べ続けた。

余計な雑音が混じるために人の言葉をよく聞きとることのできない私が、炊飯器の言葉を聞くことができたというのは⁷うれしいニュースだった。なかなか周波数の合わないラジオのつまみをまわして、思いがけずピツと合った、そこが炊飯器の声だったのかもしれない。私はにこにこ炊飯器を見、それから先生と、厚切りの大根をかわるがわる見た。

(宮下奈都『窓の向こうのガーシュウィン』 小説すばる 2011年2月号 集英社刊より 一部改変した)

問一 空欄A・Bに入れるのに適切な語句をそれぞれひらがな二字で答えなさい。

問二 傍線1のように「横江先生」が尋ねた理由として正しいものを記号で答えなさい。

ア 茶碗の中にお米以外のものが入っていたので、「私」を叱ろうと思ったから。

イ 一緒にお茶を飲むことも許されないヘルパーの仕事のあり方に疑問を感じたから。

ウ 小人が来たという冗談を言って、「私」の気持ちをほぐしたいと思ったから。

エ いつもよりもご飯がおいしかったので、その理由を聞いてみたいと思ったから。

問三 傍線2とあるが、どのようなことがよくあるのか。「こと」につながるように文中から二十五字以上三十字以内で抜き出し、初めと終わりの三字を答えなさい。

問四 傍線3とあるが、その理由として正しいものを記号で選びなさい。

- ア 「先生」に質問は一つにしてくれと言われて、どの質問にすればいいのかとっさには判断できなかったから。
イ いきなり小人の話が出てきただけでも戸惑っているのに、さらに「先生」が叱るような口調で問いつめてきたから。
ウ 「小人さん」と呼ばれたことで、「先生」の質問の意図がますますわからなくなってしまったから。
エ 「先生」が自分のためにゆっくりと静かに聞いてくれたのに、余計な雑音が混じりよく聞き取れなくなってしまったから。

問五 傍線4の二カ所の空欄には同じ漢字が入る。その漢字を答えなさい。

問六 傍線5とはどのような人のことか。正しいものを記号で選びなさい。

- ア 炊飯器の持つ特徴を的確に把握し、それに合わせて上手にご飯が炊ける人。
イ 炊飯器の音をきちんと聞き取り、的確に音声として表現することができる人。
ウ スイッチを押しただけでも、炊飯器に上手にご飯を炊く仕事をさせることができる人。
エ 炊飯器の調子を調べ、最もよい状態に調節し、性能以上の仕事をさせることができる人。

問七 傍線6とあるが、その時の「私」の気持ちとして正しいものを記号で選びなさい。

- ア 「先生」の言葉がうれしかったのに、それとは正反対のような反応をしてしまったことに後ろめたさを感じている。
イ 「先生」にほめられうれしい気持ちはあったが、それを表情に出すことに恥じらいとためらいを感じている。
ウ 「先生」の口から出た言葉は私にとっては予想外の内容だったため、何よりも先に驚きを感じている。
エ 「先生」にほめられたことに励まされ、自分の気持ちを正直に表せたことにすがすがしさを感じている。

問八 傍線7の気持ちが表れている「私」の動作が書かれた一文を探し、初めの三字を答えなさい。

問九 登場人物について説明した次の文章のうち、適切でないものを記号で選びなさい。

- ア 「私」は人の言うことを素直に聞き入れる純粋さを持っているが、それは「先生」がユーモアのつもりで言った小人の話をすぐに信じてしまうほどである。
イ 「先生」は物静かで落ち着いており、「私」に対してもユーモアを交えながら丁寧に聞き取り、うまく話を引き出している。
ウ 「私」は真面目で思いやりのある優しい性格だが、ほめられた経験に乏しく自分の言動に対して自信が持てずにいる。
エ 「先生」は思慮深く慎重な性格で、「私」に対して回りくどい言い方をしているように見えるが、実はよく考えた上で最も真実に近づける話し方をしている。

ヨーロッパでは、科学は神様の意図を知るための方法論でした。

自然を創るために神様はどんな地図を作ったのか、どんな構造を持った世界を意図したのか。科学はそれを理解するために進歩してきました。

科学者一人が扱う自然の範囲は、時代と科学自体の進展につれてどんどん細かくなっていきます。要素還元法といいますが、そうやって最終的に一番小さなものを理解し、それを組み合わせたら自然界がわが手に入るといふ発想が出てくるわけです。

そうした方法で調べていけば、対象は分子になり、原子になり、原子から核になり、電子になり、さらにクォークになると、どんどん細かくなっていったのが、科学の行きついた方向でした。二〇〇三年にはヒトゲノムの解読が完了したことによって、人間の遺伝情報が読み取れるようになりました。これは私的な解釈ですけども、私はあの時、「これで科学技術による革命が起きた」と思った。いままでの科学を根本からくつがえす革命が起きたということです。

それ以前の科学が生み出してきた方法論は、世界は神様が創ったもので、人間だけがその世界を理解できるという前提がありました。しかし、その行きつく先で人間を調べてみたら、なんのことはない、人間も特別ではないことがわかってしまった。宗教の世界では、人間は特別であり神様に似せて創られたもので、その人間が追究してきた科学も、人間同様に生物界を支配するという意識のもとで進んできました。しかしそんな人間も、地球上のほかの生物と同じように、DNAの配置を変えたり、組み合わせや大きさを変えたりするだけで、ほかの生物になってしまうことがわかったわけです。地球に住むすべての生物は、そのような組み合わせを変えただけということですから、これはおそらく、科学に対するいままでの考え方を、根本的に変えてしまったのではないかと思います。

そこでは、これまでの西洋科学で無視されてきた、アジア的なものの見方や考え方に注目が集まっています。つまり、生命はA□□ではなく、B□□として見た時に価値が生じるという考え方です。人間の体を見て、頭だけが特別だとか、手だけが特別だということではなく、足の裏を押すと全体的に健康になるといったように、全体をつなげて見ていく発想ですね。

なぜこの発想が必要になっているのか。それは、従来の要素還元方式だけでは限界が見え始めているからです。特に、環境問題においてその傾向が顕著です。

環境問題を分析する時に、従来の方法ではまず地球の事象を個々に解析してコンピュータに入力して全体を捉えようとしています。ところが、※パラメータが多すぎて、スーパーコンピュータを使うのが何をしようが、信頼にたる解答が導き出しづらいのです。

もちろん、それぞれの事象のシミュレーションはできるでしょう。たとえば、大気層がこのぐらいで二酸化炭素がこれだけ増えると、太陽熱がこれだけ注がれた時に、宇宙に逃げる熱はこれだけだから、平均温度が上がって温暖化がここまで進みますという程度なら、荒っぽいけれどもあるレベルの予測はできる。ではそれが、他の事象とどのようにつながって、さらには人間の社会がどうなっていくのだろうと考えると、そこは人間の意識のあり方によって大きく左右されるわけですね。

ですから私は、科学技術は文化であり、総合智の一面を担うものであるというように捉えたいのです。

文化とは、さまざまな要素をインテグレート(統合)させる試みを積み重ねた上で生まれてくるものです。科学技術が切り拓く新しい知や産物も、そうした要素になるのです。物事は多方面から理解する必要がありますが、その一つが科学的理解になるのですね。

同時に科学には、個々の人間に人類全体のことを思い起こさせる力が備わっています。

人間は基本的に、人間全体のことを考えようとはせず、自分のことしか考えません。いまでも多くの現代人が、自分のこと、家族のこと、会社のことしか考えていません。だからその意識をどうやって変えていくかというヴィジョンがないと、おそらく二十一世紀中に、地球温暖化に代表される大きな環境変化の中で、人類がいまのような生き方を続けることはできなくなっていくでしょう。

その時、科学は地球全体を俯瞰して課題を提示し、警告を発します。裏を返せば、そのような提示や警告が、科学技術を担う者の使命の一つになるということです。

(毛利衛『日本人のための科学論』 二〇一〇年 PHP研究所刊より 一部改変した)

注 パラメータ：媒介変数。ここでは不確定な要素というような意味。

俯瞰：全体を大きく眺め渡すこと。

問一 傍線1とあるが、その方向性を決めた考え方を含む一文を探し、初めの三字を答えなさい。

問二 傍線2のように筆者が思ったのはなぜか。次のように説明するとき、空欄に入れるのに適切な言葉を文中から二十字以内で抜き出さない。

「科学技術によって」から。」

問三 傍線3を支えていたものは何か。同じ段落の中から三十五字以内で探し、初めと終わりの三字を答えなさい。

問四 傍線4について次の問いに答えなさい。

- 1 傍線4がどういうものであったかを簡潔に述べた言葉を傍線部より前から五字以内で抜き出しなさい。
- 2 傍線4は何を知るためのものだったのかを比喻を使って述べた一文を探し、初めの三字を答えなさい。

問五 傍線5の空欄をそれぞれ漢字二字で補いなさい。ただしAとBは対義語で、Aは自分で考え、Bは文中から抜き出すこと。

問六 傍線6のような原因となるものは何か、傍線部より後から十字以内で抜き出しなさい。

問七 傍線7とあるが、この科学の役割を簡潔に述べた部分を本文から十一字で抜き出しなさい。

問八 傍線8とあるが、それは何のためか。「」に続くように文中から二十字以上二十五字以内で抜き出し、初めと終わりの三字を答えなさい。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(抜き出し・要約の問題に答える場合、句読点・記号は全て一字とする)

インターネットは人間のメディア発展史上、¹電話やテレビと同等、あるいはそれ以上に画期的である。まず、文字、音声、静止画、動画という、ヒトがコミュニケーションに駆使している聴覚、視覚的情報をほぼすべてやりとりできる。それに伴い、新聞、雑誌、電話映画、ラジオ、テレビといったこれまで人が発展させてきたメディアが提供してきたものと同等の情報、ほとんどすべて受発信できる。第二に、インターネットによる情報は一方的でなく、双方向的に、かつ一対一でも一対多でも自由に授受できる。さらに情報はサーバやパソコンのハードディスクなどに保存できる。

第三に、ラジオ、テレビは公共的情報資源を利用するため、国家等の「制度」から発信の制約を受けるが、インターネットでは、²ゲンソク的にそのような制約を受けず、個人が自由に情報発信できる。(中略)

第四に、新聞、ラジオ、テレビといったメディアの場合、そのコンテンツの制作や配給システムに膨大な資本力を必要とするのに対し、インターネットはそうした大きな資本力を必要とせず、その気になれば、個人の一台のパソコンから自分の意見や心情、制作作品などを世界中の半無限の人々に発信できる。また、情報の受容についても、新聞や雑誌のようにパッケージことの(1)や受信料のようなものはならず、多くの情報、コンテンツが実質的に無料で享受できる。

このような特性から、³インターネットは、メディア発展史上、文字の発明以降、最大級の社会的影響を与えるものであり、現実には我々の産業形態、生活を大きく変えつつある。

また雑誌、書籍、新聞、テレビなど、⁴既存のメディアのあり方にも変化が生じ始めている。これまで、日刊新聞、ラジオ、テレビなどの登場と、⁵フキユウは、それまでに存在したメディアを壊滅させることなく、むしろ共存の関係にあり、相乗効果的に発展してきた。しかし、インターネットは、⁶既存メディアの存在自体を脅かす潜在的破壊力を持っている。

⁷テレビは人々の主観的環境を均質化する方向に影響をもつメディアであった。画面上で展開されるシーンは、都市で見ても農村部で見ても同じであり、同じ番組を見る限り、大人も子どもも同じものを見るからである。テレビによって、子どもは、⁸ヨウイに大人の世界を垣間見られるようになった。情報環境という意味では、テレビは大人と子どものギャップを埋めた。

インターネットも、原理的には誰でも同じコンテンツに触れることができる。「子どもが大人の世界を垣間見る」という点では、テレビの場合以上に「⁹禁断の世界」すらのぞき見る子どもが出てきた。

しかも、¹⁰テレビから送られてくる情報は限られており、少なからぬ時間、多くの番組を家族が一緒に視聴するのに対し、インターネ

ットの情報量は無限に近い。その情報にパソコンや携帯電話を通して様々な場所で（2）するから、単独で接触する機会が多い。結果的に、受容するコンテンツは一人一人バラバラである。インターネットは、人々の話題を拡散する方向に作用する。また、メールやSNSともなると、家族の間でも、そのやりとりの相手、内容はお互い知ることではなく、もとより会話が少なく、^{※ちやうどいふ}紐帯感が低い家庭においては、家族の結びつきがさらにバラバラになる可能性もある。

★インターネットには、家族や同世代の仲間の絆を強める働きがある半面、家族や世代内のつながりの中に、⁶モザイク化した多くの孤島を作り出してしまう。^エキケン性をはらむ。

インターネットは、ほとんどコストをかけず、誰でも直接大衆に自らの表現物や意見を提供できる。実際、⁷これまでにあり得なかったプロセスで、いくつもの作品が若者らの間で評判を得たり、ブログ発の、単なる一市井人の主張がネット利用者の多数から支持されたりしている。

従来は、既成の文化装置（出版社や音楽プロダクションなど）の選別を受け流通経路に流され、主張や思想であれば、既存のマスメディア的権威（新聞社や出版社、放送局など）の^オヘンシユウを経て初めて大衆の目にさらされていたものが、それらを通らず世に送り出されることが可能になった。

ネット発信の産物が受け入れられるか否かは、既存のマスメディア的権威ではなく、直接「ネット利用者の嗜好」^{※しこう}に委ねられる。こうした新しいプロセスは、専門家集団として、その地位を保っていた既成のプロやマスメディア組織の権威の根底を揺るがすものである。

《また、政治家がテレビ中継を通さず、直接 You Tube や動画中継サービスで意見を表明したり、企業や政府の機密を公開するウィキリークスが登場するなど、新しい情報の流れが形成されようとしている。

インターネットの場合、そうした情報は、基本的に利用者のアクセス数で評価されることが多い。しかし、テレビにおいて、視聴率が番組の質の指標になるものではなく、場合によっては低俗化を促す側面があるのと同様、アクセス数や検索での上位表示は、内容の質を保証しない。また、ウィキペディアのような「衆知」は必ずしも「叡智」^{※えいち}とは限らない。既成のマスメディア的権威は、⁸玉石から玉を拾い出し、さらにそれを磨き上げる機能も担っていた。

新しいネット文化に求められるのは、一つにその^{※しんかん}真贋や質を評価する新たなシステムの構築である。しかし、そのシステムすら、ネット上ではシステムを熟知した少数のデマゴグが操作するものに^{※た}堕しかねない。とくに「空気を読む」ことが何より大事だとされるような日本にあっては、異端、少数派も排除・軽視せず、それを支持する意見が抑圧されない風土の再構築と、大勢に流されない個々人の鑑識眼の育成が喫緊の重要課題だろう。》

（橋元良明『メディアと日本人』 二〇一一年 岩波新書より 一部改変した）

注 主観的環境：自分たちのいる環境はこのようなものであるという認識。

紐帯感：強く結びついているという感覚。

嗜好：好み。

ウィキペディア：ネット上にあるフリー百科事典。誰でも書き込むことが出来る。

真贋：本物かにせ物かということ。

デマゴグ：扇動的政治家。ここでは好ましくない人物というような意味。

堕しかねない：なってしまうかもしれない。ならないとは言切れない。

喫緊：差し迫っていて、非常に重要なこと。

問一 傍線アのオのカタカナを漢字に直しなさい。

問二 空欄1・2に入れるのに適切なカタカナ語を★印より後から抜き出しなさい。

問三 傍線1とあるが、その理由を具体的に述べているのは、どこからどこまでか。初めと終わりの五字を答えなさい。

問四 傍線2とあるが、その内容として適切でないものを記号で選びなさい。

ア 個人が簡単に情報を発信できるようになり、多くの一般人がブログで自分の考えを述べるようになった。

イ 単独で情報と接する機会が多くなるため、家族や同世代の結びつきが弱まる可能性がある。

ウ 情報の評価は利用者が行うようになるため、既成のマスメディアの権威を根底から揺るがすものになりうる。

エ 都市と農村や、子どもと大人で受け取る情報が変わらなくなり、家族や同世代間の絆を深めている。

問五 傍線3のようになる要因を述べた部分を含む一文を抜き出し、初めの三字を答えなさい。

問六 傍線4と対照的なインターネットの特性を述べた一文を傍線部より後から探し、初めと終わりの三字を答えなさい。

問七 傍線5の理由を述べた部分を含む一文を傍線部より前から探し、初めの三字を答えなさい。

問八 傍線6の説明として最も適切なものを記号で選びなさい。

- ア 情報に多く接している者とそうでない者との間に大きな隔たりができ、後者が周囲から取り残されてしまうこと。
- イ あまりにも多くの情報に囲まれていることで、かえって必要な情報に接することができなくなってしまうこと。
- ウ 誰でも情報を発信できることにかえってブログなどでしか自分の考えを発信できなくなり、周囲から孤立してしまうこと。
- エ 情報に単独で接しその内容も他の者にばわからないので、周囲との結びつきが弱くなってしまうこと。

問九 傍線7について具体的に述べた一文を傍線部より後から探し、初めの三字を答えなさい。

問十 傍線8の説明として正しいものを記号で選びなさい。

- ア 多くの有用な情報から、本来に必要なものだけを取り出し、その精度を高めていこうとすること。
- イ 有用なものから価値のないものまである雑多な情報の中から価値のあるものを選び取り、その価値をより高めていこうとすること。
- ウ 価値が低いと思われる情報の中に隠れている重要な情報を探し出し、その本当の価値を評価しようとする。
- エ 価値のあるなしに関係なく、扱い方によって価値が生まれるものと考え、自ら価値を作り出そうとすること。

問十一 この文章の《 》部分を八十字以上、百字以内で要約しなさい。なお、解答の中に「情報」「内容の質」「鑑識眼」という言葉を入れること。

国語

解答用紙

※印らんには何も記入しないこと。

受験番号氏 名

評 点

問六	問三	問一
		A
問七		B
	}	
問八		問二
		i
	問四	
問九		
	問五	

[illegible]

問十二										問八	問六	問四	問三	問二	問一											
															1	エ	ア									
											問九	}	問五													
																	オ	イ								
										問十		問七			}	2										
																			ウ							